

日本労働年鑑 第25集 1953年版
The Labour Year Book of Japan 1953

第一部 労働者状態

第一編 労働人口の構成

第二章 主要労働人口の構成

第二節 鉱山労働者

第二節 鉱山労働者

「昭和二三年、本邦鉱業の趨勢」(資源庁長官官房統計課編、昭和二六年一二月刊)によれば、一九四八年末現在のわが国鉱業事業所数は二、七二四、その在籍労務者数は五八四、三七九である。

鉱山労務者の地方別数

鉱山労務者数を全国八商工局別にみると福岡二八〇、五二一(四八・〇%)、札幌一一〇、二四五(一八・九%)、仙台七二、一八九(一二・四%)、広島四一、六七六(七・一%)、東京三七、一五二(六・四%)の順になっている(第一八表)。

鉱山労務者の鉱種別

石炭山の四五七、四七六が最も多く、労務者総数の七八・三%を占めている。次位は金属鉱業の七一、一五五(一二・二)である(第一九表)。

鉱山労務者の体性別数

鉱山労務者の鉱種別、体性別数は第二〇表のごとくである。

日本労働年鑑 第25集 1953年版

発行 1952年11月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年8月10日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1953年版(第25集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)